



# 中間試験終わる。

高校に入学して最初の中間試験が終わりました。結果はどうだったでしょうか。順位や偏差値というものは相対的なもので、必ず1番もいれば291番もいるわけですから、それ自体を気にしても仕方ありません。しかし、人間はそんなことがわかっていながら、どうしても、相対的な自分の位置で自分の価値を決めたり、落ち込んだりするものです。また、自分の努力を見る際に、どうしても順位や偏差値といった「目安」を利用しなければいけないのも事実です。

高校の学習は、今回のように短い範囲であっても11科目という非常に多くの範囲を高度なところまで問われます。したがって、試験前に勉強することももちろん重要ですが、それ以上に、普段から、どのような学習姿勢を持っているかが問われているのです。つまり、「試験前だけ勉強する」「小テストに合格することが目標で終わったらいっさい振り返りや復習がない」というようなことでは、学習は定着しません。定期試験でさえ、こうなるのですから、まして大学入試になれば、よりいっそう普段の学習が問われるのです。定期試験のために勉強をする生徒は、おそらく、大学入試の前、高校3年生になったあたりに受験勉強を始める生徒でしょう。これでは、高校入試に比べ格段に範囲が広く、高度である大学入試に対応することはできません。逆に普段から、「理解する勉強」をしている生徒は、仮に本校の中で相対的に順位があがらなかったとしても、特に5教科7科目が要求される国公立大受験などで確実に成果があがるといえます。

中学校との違いを思い知らされた人もいるでしょう。ここでもう一度、高校生としての学習に目を向けてみましょう。

第一に、自分の学習習慣の見直しをしましょう。もっとも

## 授業・学習習慣の見直し ノック、達成シート、手帳・・・

見直す必要があるのは授業の受け方そのものです。忙しい高校生活において高校1年2年時に毎日何時間もの学習時間を捻出するのは大変なことです。ですから、まず、授業を集中して受けることを考えてみましょう。次のことをチェックしてください。

### 授業のチェックリスト

前日に夜更かしをして睡眠不足になっていないか。

睡眠不足では、授業の集中力はとてものぞめません。

朝食をきちんととっているか。

脳の活動には糖分、血糖値が必要です。必ず、朝食、昼食をとりましょう。食事後1時間から2時間で脳の活動に最適な時間がやってきます。

授業の準備をきちんとしているか。

忘れ物があるために、人に見せてもらう、借りる、などといったことでは、書き込むこともできません。また、「ない」状況ではそもそも授業を捨てているのと同じです。当り前のようですが、不振者ほどこうした当り前のことができません。

ノートを「写して」いないか。プリントを「埋めて」いないか。



ノートを「写している」ということは、あとで「覚える」時間が必要になります。プリントの穴を「埋めている」のでは、あとで「覚える」必要もでまずし、穴以外を覚える時間もなくなります。「覚えて」「思い出して書く」という単純な意識の改革で学習効率は飛躍的にあがります。また、ノートに書くのは、重要な先生の話や着目点（「重要！」とか「最初にここに着目！」とか「苦手、要復習！」とか）であるべきです。えてして先生方は「結果」を黒板に書きますが、「過程・プロセス」は熱く口頭で語ることが多いのです。

IMRシート、単語帳、文法書などを机に出しているか。

文法、単語など、反復して覚えるべきものを授業中にリストアップするのが最も効率的です。できれば、リストを作るか、もともとリストになっているものを持参して、マークしていくことが重要です。もちろん、その場で覚えるべきです。

先生の問いかけに「返事」「反応」しているか。

「返事」というとおおげさに聞こえるかもしれませんが、しかし、自分が指された時だけ、声が出るようでは、指されなかった時間はどうなっているのでしょうか。先生が全体に問いかけた時も、他の誰かが指された時も自分が当たったと思って考えることが大事なのは言うまでもありません。そのためには「声を出す」という形が重要なのです。そうすれば、質問をしたり、「もう一回説明してください」と言ったりもできるようになっていきます。



## 教材以外で授業に必要なもの

自分が日ごろ使っている参考書

ない人は買わなければいけません。もちろんまずは学校指定のものを日頃から使いましょう。

単語帳、リストアップするノート

単語や文法など、学年や担当者が変わっても使い続けられる専用ノートがあるといいでしょう。

三色ボールペン

マーカーは「大事」という雰囲気にはしか用いられませんが、色ボールペンは重要なことを文字で表現できます。三色ボールペンなら持ちかえる時間がかかりません。

付箋やシール

「要復習」「重要」「試験に出る」「質問」など色で分けておいたり、あらかじめ書いたりすれば非常に便利です。また、「復習したらはずす」「復習する場所を時間差で動かす」などのルールを決めるなどの使い方もありますし、必ず持っているべきものです。

手帳

やらなければいけないことをリストアップするのは手帳です。

原稿用紙、白紙

字数を意識したまとめ記述は、国語や英語などでは不可欠です。また、授業のちょっと空いた時間に歴史、公民では単元まとめをするのもよいでしょう。白紙はイメージツリー、フィッシュボーン、マインドマップなどと呼ばれる単語の関連付けを行うとよいでしょう。

## 学習習慣を見直すために

次に家庭学習の習慣を見直しましょう。繰り返しになりますが、高校生の抱える問題点は次の通りです。

クラブや行事、趣味など忙しいし、疲れる

予習、復習をしなければ授業についていけない。

それどころか+アルファの問題集も必要。

息抜きやリラクセスする時間も作らないと3年間継続できない

というようなところでしょうか。もちろん、だからこそ授業が第一ということになるのですが、それと同時に家庭学習も工夫して習慣化しなければいけません。

ターキー、小テストを利用する。

ターキーは試験前日にやると60分はかかる範囲にしています。毎日やるなら一日10分で終わる範囲です。ターキーを「合格」することでなく、「学習習慣を作る」ことに利用しま

しょう。毎日少しずつ、がポイントです。

スキマ時間を最大限に生かす。

登校時間の電車の車内、学校についてHR前の10分、家に帰って食事までの15分、などスキマ時間はたくさんあります。スキマ時間用の教材を常に持っている、あるいは、そのスキマ時間が生まれる場所に、もう一冊スキマ時間教材を置いておくことが重要です。こうした時間が無駄でなくなると、まとまった時間は1日1時間程度でじゅうぶんになるはずです。

朝の時間を有効に使う。

眠くなる時間にだらだらとやるよりは、朝早く起きて、ストレッチと食事、早めに学校に向かって朝時間を活用した方が効率がよいでしょう。

目標達成シートやノックシートをきちんとやる。

目標達成シート 長期目標から短期目標を決め、そのために必要なことをリストアップし、生活サイクルを考えるシート。目標に自分を近づけ、PDCAサイクル(プラン・ドゥ・チェック・アクション)を作るためには欠かせません。すでに次の期末試験に向けてのシートを配りました。2週間ごとに書き直して、問題点を洗い出しましょう。

ノックシート 毎日必ずやることを書き出し、やったかどうかをチェックする単純なシート。手帳の利用、ターキーの学習、お手伝いが基本。馬鹿にせず続けると思っている以上に効果が出る。やった人しかわからないが、騙されて1か月続けてみてください。何かが変わります。

手帳に to do リストを作る。

手帳には、「明日やること」を「明後日以降の予定」を見て記入し、つぶす場所を作りましょう。

今やる。三日坊主を怖がらない、三日坊主を繰り返せばよい。

今、書いてきたシートや手帳利用など、「やろうと思ったけどできなかった」という人もいるかもしれません。しかし、だからまた始めればよいのです。3日間を5回繰り返せば15日。やらなければ0日です。もちろん、続かない理由をつきとめて、その原因をつぶす作業も必要ですが、うだうだ言う前に、まずやってしまえばよいのです。少なくとも目標達成シートは2週間に一度、ノックシートは1か月に一度、ターキーは1週間に一度、やるチャンスをこちらが与えています。そのたびに3日坊主でも、やってみてしまうのがいいと思いませんか？そのためには、「今やること」が大切です。



## 中間試験の結果を見て

中間試験の結果から言えることとして、上記の内容と同じことですが、常日頃の学習の取り組みの結果が残念ながら出てしまったということが言えそうです。ターキーの合格率、平均点など1組~4組の方が5組~7組に比べて順調に成果をあげてきましたが、中間試験も共通科目の英語、保健、現代社会、世界史などで1組~4組の方が、平均点が高い結果となりました。これは能力というよりは日頃の取り組みであるように感じます。特に保健では最も高い平均点のクラス3組と低いクラス7組では平均偏差値で15も異なっています。1組~4組、5組~7組でも9ポイントの差があります。試験勉強で全てをこなそうとした結果、保健まで手が回らなかったのかもしれませんが、保健も大切な一科目で履修し成績に加算される科目です。次に差がついているのは英語です。こちら、英単語テスト、英作文マラソン、構文150の活用度合いなどの差が出たような気がします。国語、特に古文、漢文や数学は、進度という差がついています。もちろん、これらは慌てる必要がないことですが、日頃の学習習慣という



差はそれ以上にのぞましいものではありません。ぜひ、前述のシートやターキーへの取り組みなどできることから、ひとつずつ始めていきましょう。

## 成績に関する注意

今回の中間試験では、現代文、古典、数、数Aの4科目について、1組～4組と5組～7組で別の問題を用いています。主に既習範囲がずれていることが主な理由です。そのため、全教科順位、文系、理系3教科順位、国数英順位など、総合順位については、各科目の偏差値を得点として合計し、さらに偏差値を出して順位やAAなどのランクを出しています。一方、中入順位、高入順位については、合計点を偏差値化して順位づけをしています。

そのため、1組～4組の合計順位と、総合順位が異なることが生じます。同じ得点であっても、平均点が低い科目で高得点をとると高偏差値となり、平均点が高い科目では低い偏差値となるわけです。ですから、合計点が低い人が、偏差値の合計では逆転することが起こるのです。

今回の試験では、物理、化学、数学I、数学Aなどの平均点が高く、高い偏差値(AA70以上)がとりにくい結果となり、逆に古典、現代文、英語などの文系科目の平均点が低く、高い偏差値をとりやすくなりました。結果として、総合順位は文系科目で得意な生徒が上にしやすい結果になったようです。

「人数が少ない入学別順位が総合順位である」という現象はこうしたことから起こることですので、間違いではありません。

## 保護者の方へのお願い～偏差値というもの

このように偏差値というものは「相対的な順位」を見る物差しとして用いているものです。ですから、生徒の学力を「絶対的に示す指標」ではありません。

偏差値は、母集団の平均を50とし、正規分布をした場合、75～25の間にほぼ全ての生徒がおさまるようにできているものなのです。したがって、偏差値だけで出来不出来を判断することはなかなか難しいのです。今回の場合、古典や英語では結果としてAAが取りやすく、物理、化学、数学、世界史は平均点が高いためにAA偏差値70以上は100点でもとれない結果となっています。(生徒には「偏差値得点換算表」を配り分析ができるようにしています。関心のある方はご覧ください。)こうした偏差値の性質を知っておかないと正しい現状分析はしにくいのです。

ですから、高校入試の偏差値と今回の結果を比べることはナンセンスです。今回の偏差値は、校内平均を50としているものであり、この30期生がどんなに優秀でも、どんなに勉強をしていなくても、平均のものが50になるのです。これは今後、30期生がどんなに優秀になっていったとしても変わりません。ですから、定期試験の結果から見えるのは、「この学年における相対的な順位」であり、お子様の「絶対的な学力」ではないのです。極端な言い方をすれば、校内偏差が落ちたとしても、学力が落ちたとは言い切れない。たとえば、みんなが上がったのに、それほどは上がらなかった可能性もあるのです。

では、絶対的な学力はどうやって測れるのでしょうか。それはやはり全国模試の結果による必要があります。しかし、これらの全国模試も、その母集団における相対的な順位であることに変わりませんから、駿台の全国模試と河合の全国模試の偏差値を比べて、アップダウンを見たり、まして、河合塾の偏差値で駿台の偏差値表にあてはめたりするということはナンセンスなのです。厳密に言えば、河合塾の高1模試の偏差値を、河合塾の高3模試の偏差値表にあてはめることも無意味です。

まして、高校入試の偏差値で、大学入試の偏差値にあてはめることはできません。通常の学年でいうと、本校の平均ぐらいの生徒が大学入試では50～55ぐらいだと思っていた方がいいのではないのでしょうか。これにしても、理系の母集団が文系の母集団に比べて優秀であることが多いので、受験生向けのランキング表では、早慶は文系では70～75、理系では低い学科で60ぐらいからランキングされています。これは理系の方が入りやすい、低い、という意味でなく、文系と理系の母集団が異なっているということなのです。ですから

文系の方が高い偏差値をとりやすくなりますが、難関に行くためにはさらに高い偏差値が必要になるわけです。

こうした偏差値についての知識も少しずつ蓄えていただくと助かります。

## 進路の手引の配布について

本校では、卒業生の進路データの詳細をまとめた「進路の手引」を配布しています。大学入試情報、小論文、面接試験なども含めた科目別の学習方法、推薦入試のデータ、文理選択について、校内偏差値による合格先分析、先輩の手記などさまざまな貴重な情報が載っています。さまざまな場面で参考になるとと思います。特に高校1年生に参考になるところをあげておきますので、参考にしてください。

目標大学の校内偏差や自分の校内偏差から合格する大学を知る。

目標達成シートでは、校内偏差値ベースで自分の目標を決めるように作ってあります。進路の手引の96ページ、110ページを参考に、目標とする大学の校内偏差値を知りましょう。あまり大きな声では言えませんが、30期生(中学8期生)は4月のスタディ・サポートも含めて過去最も優秀な成績をおさめていますので、目標偏差値をやや低く設定できるでしょう。

大学入試の形態や方法、必要な科目を知る。

大学入試の形態については学年通信の2号でも触れましたが、より詳しく知ってください。3ページ、7ページを参考にしましょう。目標大学に必要な科目を知り、その科目を意識して準備をすすめる必要があります。決まらない人は、文系と理系、両方の準備をするつもりで夏を過ごしましょう。なお、2012年、この学年からセンター入試が変わり、すでに東大の変更が発表されています。(両方についてすでに資料を配布しています。)特に社会の選択で制限がかかる可能性がありますので頭にいれておきましょう。文理選択を考える。

秋には早くも文理選択を考えなければいけません。29ページが参考になるでしょう。ただし、次のことは必ず頭に入れてください。

**英数国がそろわないと大学選択の幅が狭まる！**

理系の場合、英数理の難度は、早慶、東工大、東大とあまり変化はありません。この3大学を分けるのは、国語の有無、そして国語の完成度です。言い方を換えれば、理系で早慶を狙うためには理系3科目だけでも、成績上位者に名を連ねる必要があります。その自信がない場合、国語がそろわないと、国公立が消えてしまいますので、東京理科大、芝浦工大という進路にしぼったことになるのです。逆にいえば、この2大学に行く英数理の力に加えて国語がそろえば、埼玉大、千葉大などがターゲットになるのです。

文系の場合、数学は東大、一橋だけでなく、慶応などでも大きな鍵をにぎる科目です。今から捨てるような学習はほめられません。

先輩の体験談から参考書や勉強法を考える。

目標達成シートには最後に、目標のためにやることを書かなければいけません。先輩の体験談から、参考書などを手に入れましょう。先生方は「学習の手引」に参考書載せていますが、どちらでも早く手に入れて、毎日の学習に生かすことが重要です。



## 進路関連行事の案内

教室や廊下にはさまざまなポスターが貼られています。こうしたイベントの中にはとても貴重なものや進路に直結するものも数多く存在しています。シバウラシエンクラスなどもそうした貴重なもののひとつなのですが、こうしたものを「そのうち」と思っているうちに、あっという間にチャンスを失ってしまいます。興味のあるものはぜひチャレンジしまし

よう。現在案内しているものは次の通りです。

東大で授業を受けよう！

千葉大学「未来の科学者養成講座」

明らかに千葉大学の「理科大好き入試」や「飛び級入試」を意識したコメントがあり、千葉大学理系を考えるものは参加すべきイベント。

千葉大学サイエンスイベント

河合塾「医学部を知ろう」

小柴先生「ノーベル賞受賞者を囲む」

作文コンクール各種「毎日新聞インターネット小論文コンクール」他

夏休みをまえに様々なイベントや作文コンクールを案内します。特にAO入試、公募推薦、自己推薦などの特色入試を考えた場合、こうしたチャレンジは欠かせません。高1、高2の2回のチャンスしかないと思って、ぜひがんばってください。

いくつかのコンクールには、入賞者に推薦入学の権利を与えるようなものもあります。ぜひ多くのチャンスをつかんでください。

## 夏期講習の案内

週明けに夏期講習の案内を配布します。本校では、夏期に有料の夏期講習を行っています。1講座は90分×5日間で、テキストを含めて1500円です。学習は、本来自分で計画して、自分ですすめるべきものですから、夏期講習に頼るようでは困るのですが、入試問題に近い形の学習をするよいチャンスだと思いますので、自分に合う講座、時間に合う講座は積極的に受講しましょう。ただし、以下のことに気をつけてください。



補習ではなく、自分から学習する姿勢を持っていること。

成績不振者への補習は別途行います。申しこんでさぼる、居眠りをするのは論外ですが、予習や復習をしない人、指名されても答えられないような人は困ります。受ける以上、しっかり準備をして積極的にのぞみましょう。

講座内容をしっかり読みましょう。

授業ではありませんので、ある一定のレベルを狙って講座を設定しています。いざ取ってみて「難しすぎる」「易しすぎる」という苦情が出るのも困ります。その講座の内容を理解してレベルや内容を確認しましょう。わからなければ担当の先生に質問してください。

とりすぎに注意

講座を90分聞くだけでかしこくなるわけではありませんから、その講座の予習、復習にかかる時間をその5日間には確保しましょう。つまり、その日に受講したコマ数×90分に、その講座の予習、復習に要する時間×コマ数がその5日間の学習時間です。クラブなどを考えると、宿題をやる時間はその5日間にはないのではないのでしょうか。自分にとって必要な時間数を考えましょう。

自分のレベルを考える、自分にとっての優先を考える

とらなければいけないことはないのです。特に自分のレベルが「苦手」である場合、補習や特別課題があるでしょうから、そちらを優先するのは恥ずかしいことではありません。基本から復習してくれる講座があればいいのですが、そうでない場合、何を優先するのか考えましょう。今回の試験の不振者の場合、まずはここまでの範囲を教科書レベルからきちんとやっておくことが大事です。まだ3カ月なので、今なら欲張る必要はありません。「友達がとるからとる」「ひとつはとる」という考えは必要ありません。自分にとって合うもの、必要なものを優先しましょう。

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

## 目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

## 身につけるべき力

目標から「逆算」する力  
やるべきことを「具現化」する力  
他者を「理解」し、「理解される」力

### 夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。

今回は試験を終えて、学習習慣を見直すという形でさまざまなチェックリストを書きました。悔しい気持ちがあるうちに必ず次の一步を踏み出すことが重要です。

上の学年目標と夢実現のための十則をもう一度読んでみてください。夢をかなえるためにやるべきことを精選してあげてあります。目標とする人間像、身につけるべき力。気づき力、聞く姿勢、逆算、具現化。優先順位、タイミング、分析。

今は、まさに十則の十番目、分析の時期です。そして、九番目、今がそのタイミングです。7番目、何度も目標達成シートを書くことで、2番目形と期限が生まれます。分からなければ聞きましょう。6番目、聞く人を人は放っておきません。そしてなにより一番目、夢を持つこと、ただ一生懸命にやるのではなく、夢のためにやることを決めること。落ち込むことは悪いことではないですが、必ず前を向いて形になる一步を踏み出しましょう。

# 今後の予定

- 7月 1日(月) 40分短縮授業  
4日(土) 平常授業  
8日(水) 特別考査 国・数・英 各80分  
特別考査1週間前はクラブ活動の停止はありません。計画的に学習しましょう。  
17日(金) 短縮授業後、終業集会 下校は平常通り  
18日(土) 夏休み  
21日(火) 夏期講習 期  
27日(月) 夏期講習 期  
8月28日(金) 始業集会後、河合塾記述模試  
河合塾模試を含め、夏休みの学習については次号でお知らせします。

